

第2回議会報告会質疑応答記録（概要）

平成24年4月25日(水) 午後7時～ 吉田（吉田地区センター）

福祉教育委員会報告

Q 市民

民間保育園の入園児数は。

A 山口議員

よしだ保育園 105定員20名

グレイスフル保育園 60定員44名（4月1日現在）

意見交換会

Q 市民

・広丘駅整備されてきたが、郷原街道交通量が多く危ない。歩道にあがったり下がったり、歩道の幅も狭い。車道にはみ出る。国道に不必要なほど歩道があり、車が止まっている。計画しているか。

A 永井議員

・確かに危険な県道である。応急的に修理してあり、車が出入りするところが下がっている。建設課から松本建設事務所に改良するようお願いしたい。

今、広丘まちづくり研究委員会が発足している。今年と来年で、短歌館周辺、郷原街道も散策できるようにしたい。西幹線にも車が回るように整備を早くしてもらえるように要望していく。

A 山口議員

・通学路の安全対策の要望が上がっている。郷原水路の一部に蓋がされた。平らではない歩道の要望もある。今後も県にしっかり要望していく。

Q 市民

・日本全国で震災の関係が話題となっているが、市の議会で震災の話題が出なかったのか。防災倉庫について、倉庫を作った後、倉庫の中の整備は、市では補助しないとの考え。市でやるべきことを各区がやるということではなく、施設の拡充をするべき。避難所として設定された場所に倉庫があるが、市の備蓄倉庫には、かんぱん、簡易トイレがある。各区の倉庫にはない。充実させる必要がある。

・震災に対する考え方について、松本市は危機管理課が管理部に昇格した。塩尻市では防災担当者がすぐ変わる。防災対策ができているのか疑問。

A 柴田議員

・防災倉庫については、市で設置したものは中に入っているものに関して、チェックをしていると承知している。区の所有倉庫に関しては、議会の中ではその中のものをどうするか議論はされていない。行政が絡んだ対策の必要があると感じている。組織については、消防防災課として、消防と防災が分かれているが、防災関係を独立させるとは現

状のところ聞いていない。防災行政無線が整備された。移動系の無線も整備していく予定。

A 山口議員

- ・福祉教育として答えます。家族がいても日中ひとりになることがある。マグネット式の高齢者安心安全カードを夏ごろ民生委員にお願いして配布予定がある。日常の一人暮らしの安否がわかるようにリングを出すなどの取り組みを市でも行ってほしいと委員会でも出されている。

A 永井議員

- ・消防委員会長の立場で。水道事業の関係等、災害協定に参加していると簡易型一般入札に参加するポイントが高くなる。消防委員会でも業者と消防団三役の顔合わせを予定している。連携を取って行きたい。建設水道とも応援に出向くなど整備が進んでいる。

Q 市民

- ・民生委員だけでなく、全体に分かるようにして欲しい。民生員だけが把握していても仕方ない。体制づくりを。各区の温度差があるので、指導して欲しい。

A 金田副議長

- ・個人情報の関係で、介護情報や施設の入所など区長にも連絡欲しいと要望されている。議会としても取り組んでいきたい。

A 中村議員

- ・地域防災計画の見直しをしている状態である。震度3厳戒態勢にするなど、学校など地域との連携にもとりくんでいく

Q 市民

- ・防災は、自助、共助、公助が大切。自助に関しては教育が大切。学校で防災の教育、大人に対しての教育はどのようなことを考えているか。
援助の必要な方への共助も大事であるが、地域の間関係が希薄。そのような地域で共助を行う体制が組めるかが課題。公助ということで、市でできることと自分達でやることの線がわかってくると、自分達でやることが見えてくる。
- ・塩尻市内の電力の需要と供給どうなっているか。熊谷市では公共施設をクールスポットにしている。どうぞ来てくださいという訴えかけをしてはどうか。

A 山口議員

- ・子どもたちの教育は大事だと感じている。釜石の教育に学ぶべきと議会でも話が出ている。共助としては、誰が誰を支えるか、ご近所支え合いマップを考えている。日頃のおつきあいの中で信頼関係を気付くことが理想であるが、地域的に難しいという事も聞いている。

A 柴田議員

- ・電力は15%市役所の関係で節電している。照明、冷暖房、冷蔵庫などで取り組んでいる。クールスポットは取り組んでいないが、良いかも。クールビズについては取り組んでいる。今年は早めという声もあるようだ。まだ日は決まっていない。

A 金田副議長

- ・電力需給について中電の見通しに関心を持って見ている。5%強の余力があると聞いて

いる。万全の対策を組んでいかなければいけない。片丘のS N R跡地への太陽光発電も話だけで進んでいない。議会としても研究したい。

Q 市民

- ・議会はもっと生々しいものでないかと思う。一番の課題は何か。報告は簡単に、生々しいものを聞かせて欲しい。

A 中村議員

- ・私たちも話したいが、委員も言葉を選んでいる。本音で話し合える環境作りに取り組んでいく。

Q 市民

- ・避難場所について、田川高校はマップに掲載されているのに、受け入れを断られた。今はどうなっているか。ここや田川高校に地震計を設置してほしい。

A 柴田議員

- ・HPに出ている避難所はいつでもつかえるようにしていくべきと思う。使えるようにさせていきたいと思っている。田川高校は県なので調整が必要。地震計は市役所しかないのではなかなか設置に至らない。現状では増設は見えていない。

A 中村議員

- ・地震計には気象庁との絡みで、旧自治体に1つという決まりだが、簡便なものでも増設できればと思っている。田川高校には信州大学の研究用があると聞いている。私からのお願いとして、地区の防災会議を作って欲しい。お互いに助け合う方法を地域としての防災対策を考えていきたい。

Q 市民

- ・ハザードマップは、ただ出すだけじゃあ意味がない。市の防災倉庫は地区に1つ。危険な地域には他よりも手厚くしてほしい。地域の連絡会について、モデル的に吉田でやることを市や議会から提案してほしい。地域にばかり期待されても出来ない。ハザードマップは、具体的な防災計画で生かしてほしい。

A 金田副議長

- ・必要などころに必要な対策を、議会としても市や区長と話し合わなければならない、お力添えを。

Q 市民

- ・永井さんをお願い。えびの子から八十二銀行の間、街灯が途中で切れている。吉田の区長から野村の区長には頼めない。危険である防犯灯つけて。

A 永井議員

- ・取り組んでいきたい。

Q 市民

- ・鳥獣害対策。松本市はネットを張った。今度は松本の鹿やイノシシが入ってくるように思う。対策を宜しくお願いしたい。

A 永井議員

- ・個体調整で奨励金を出している。農林課の方で近隣市町村と同じ日に駆除するなど考えたい。個人で2分の1、団体で3分の2の補助が出る。研究して、今より前進したい。

A 金田副議長

- ・議会も鳥獣害対策を重く見ている。県の畜産試験場に常駐職員がいる。なかなか全てを受け止めることができない。各地区で勉強会をする場合専門講師が出向きますのでお知らせしておきます。